

DATA BOX



EPP* 日本・マレーシア 経済連携研修

Japan-Malaysia Partnership Program



2005年12月、「日・マ経済連携協定」締結時における共同声明に基づき合意されたのがEPPの始まりであり、1981年マハティール元首相が唱え、実施が開始された東方政策研修を改編する形となっています。

研修内容 協定に規定されているのは、次の9分野です。研修内容は、毎年、両国政府の合同調整委員会を通じ決定され、マレーシアにおける人材養成ならびに両国間の相互理解・友情の促進が目的とされています。

- 1 企業内研修
- 2 職業訓練(観光含む)
- 3 中小企業
- 4 情報通信技術
- 5 農業
- 6 科学技術
- 7 環境
- 8 金融
- 9 社会福祉向上

研修経費負担 EPP研修は両国がコストをシェアする形態をとっています。

日本 Japan	マレーシア Malaysia
日本国内移動費	往復航空費
保険	生活費
研修監理費	研修委託費
	宿泊費

マレーシア側の負担額は？ ざっと見積もって…

往復航空費 525,000円 (@105,000円×5人)	+	宿泊費 1,540,000円 (@7,000円×44泊×5人)	+	生活費 450,000円 (@2,000円×45泊×5人)	=	合計 2,515,000円
-------------------------------------	---	---------------------------------------	---	-------------------------------------	---	------------------

経済発展が著しいマレーシアでも、決して少なくはない支出ですが、日本に研修員を送り技術を習得させたいマレーシア政府と、日々の研修に取り組む研修員たちのひた向きさを、このような数字からも伺うことができます。

ジャイカプラザニュースとくほく 2011年9月号

JICAプラザ

国際協力のための情報スペース



展示 世界各国からの応援メッセージ

OPEN

東日本大震災を受けて、計100以上の国々から被災地へのお見舞いメッセージがJICAに寄せられています。JICAプラザでは世界中からの温かい励ましの声、復興への応援メッセージの一部を掲示しています。

セルビア共和国
からの
応援メッセージ

日本へのエールを込めて、人々が赤と白の布をまとい「人間日の丸」を作りました。街中にある「日本と共に」という義捐金を呼びかけるセルビア赤十字と携帯電話会社の広告(写真右上)。

JICA東北

JICAプラザ併設

開館時間 9:30~17:30
月曜~金曜

宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1
仙台第一生命タワービル15F
(地下鉄勾当台公園下車徒歩1分)

TEL 022-223-5151

✉ jicathic-pr@jica.go.jp

WEB SITE <http://www.jica.go.jp/tohoku/>
ウェブサイト



東北6県 JICAデスク

イベント情報の詳細などお気軽にご連絡下さい。

- 青森デスク 青森市水産ビル5F TEL 017-735-2249
- 岩手デスク いわて県民情報交流センター(アイーナ)5F TEL 019-654-8911
- 秋田デスク 秋田総合生活文化会館(アトリオン)1F TEL 018-893-5499
- 山形デスク 山形市霞城セントラル2F TEL 023-646-6267
- 宮城デスク 宮城県仙台合同庁舎7F TEL 022-275-5540
- 福島デスク 福島県庁舟場町分館2F TEL 024-524-1315

4月18日に秋田デスクの住所と連絡先が変わりました。



JICA東北はISO14001環境マネジメントシステム認証機関です。
この印刷物は適切に管理された廃材から生まれたPSC認証紙と環境にやさしい植物性インクを使用しています。

2011年9月



今月の特集 Topic in Focus

東日本大震災の 教訓を世界へ(2)

日本・マレーシア経済連携研修(EPP) による医療電子機器コース

表紙写真:「マレーシア医療電子機器コース」の被災地視察研修にて、岩沼市・南浜中央病院を視察。

JICA東北 広報誌 プラザニュース

NEW FACE!

永見 光三 (ながみ こうそう)

JICA東北 震災復興担当



本部情報システム室から4月中旬に震災復興担当として着任しました。震災復興にどのような貢献をすべきかこれから必死に悩みたいと思います。家族とともに東北の地で、「地を住きて走らず」、「石ば溜って吸く板のごとくに」頑張りたいと思っています。皆さまよろしくお願いたします。

NEW FACE!

秋山 慎太郎 (あきやま けんたろう)

JICA東北 震災復興担当



南米コロンビアから帰国して、毎年9月のシルバーウィークは自神、八甲田、遠野、平泉などを回りました。紅葉の山々がとてもきれいで食べ物もおいしいですね。もっとも東北を知りたいです。これからは復興支援に関わらせて頂きます。元氣な東北を全国、全世界に発信していきたいです。よろしくお願いたします。

Event

イベント 情報

宮城 第4回未来づくりESDセミナー 9/10

会場 宮城教育大学管理棟 大会議室/中会議室 13:00~17:00

インドネシア・アチエ州や中国四川省、そして東北の陸前高田市、気仙沼市、それぞれの被災地における教育、心のケア等の現状・方法・実践事例を共有し、今後のアクションに繋がります。 [問合せ](#) JICA東北 市民参加協力要員 高橋悠子

全国 国際協中学生・高校生エッセイコンテスト募集! 応募締切 9/16

応募テーマ これからの日本 ~世界の中で私たちができること 対象 全国の中学生・高校生

開発途上国の現状や日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきか、身近な生活の中で考えてみましょう。 [問合せ](#) JICA地球ひろば <http://www.jica.go.jp/hiroba/>

東北5県 平成23年度 教師海外研修 募集集中! 応募締切 9/16

会場 国内研修: 仙台市/海外研修: インドネシア 対象 小・中・高等学校教員

国内事前研修 ①10/29(土)~10/30(日) ②12/3(土)~12/4(日)
海外研修 12/24(土)~12/30(金) 国内研修は一般の参加も一部可能です。
国内事後研修 平成24年6月予定 [問合せ](#) JICA東北 市民参加協力要員 高橋悠子

山形 異文化理解講座「世界をのぞけば…」 第4回 9/17

会場 山形県国際交流センター研修室 13:30~15:00

山形在住の外国出身者や世界各国でいろいろな経験をされた方を講師に迎え、諸外国の文化を楽しく学ぶ講座です。参加費300円(山形県国際交流協会賛助会員は無料)。要申込。 [問合せ](#) 山形デスク 担当者: 西川

全国 グローバル教育コンクール 募集集中! 応募締切 10/24

応募部門 ①写真・映像部門、②国際協力レポート部門 対象 全国の中学生・高校生

世界が抱える様々な問題について、自分たちの問題として考え、解決のために自ら行動できる人間を育成することを目的とした、グローバル教育を実践する際に活用できる作品を募集します。 [問合せ](#) JICA地球ひろば <http://www.jica.go.jp/hiroba/>

今月の特集 Topic in Focus



東日本大震災の教訓を世界へ(2)

日本・マレーシア経済連携研修(EPP)による医療電子機器コース

Text: 斎藤 奨 JICA東北 総務課 課長

東日本大震災の影響で多くの研修が延期される中、2011年6月17日に「マレーシア医療電子機器コース」の研修員たちが福島県郡山市にやって来ました。福島県は、原子力発電所事故による風評の広がりや苦しんでおり、海外から研修員を呼ぶことなど無理と思われる矢先の嬉しい来日でした。彼らは医療電子機器を学ぶ者として正しい放射線の知識があり、来日に際しては文部科学省の発表する放射線量情報や JICA マレーシア事務所の提供する情報を根拠とし、安全だと判断して福島にやって来たのです。

1ヶ月半の研修期間では、放射線器機や超音波診断装置の構造などを習得するかたわら、震災後の病院の復旧状況に関心を寄せると同時に、震災直後からの日本人の礼儀正しい行動特性に感銘を受けており、JICA は医療現場における医療従事者の行動倫理を学んだ

めに、実地の機会として被災地視察研修を行いました。この機会を与えてくださったのが岩沼市・南浜中央病院であり、病院に勤務する精神保健福祉士の南條さん(病院付属のみなみはまクリニック所属)から、震災後の職員の皆さんの行動や復旧の状況などを伺いました。病院には当時約180名の患者さんがおり、体の不自由な方も多く入院していたそうです。その中で、1名の被害者も出さなかったことは、医療従事者の緊急時対応の適切さの表れであり、我先に逃げ出さず速やかに避難できたことは、日本人の行動倫理の素晴らしさだと研修員たちは感銘を受けていました。この研修を終えた彼らは、「母国に帰国したら、復興に向かう日本をアピールする」とコメントすると共に、マハティール元首相の提唱された東方政策の真意にも思いを寄せているようでした。 ※給食業者2名は被害に遭われたそうです。

南條さん(左)から震災後の話を伺う研修員たち。院内の壁には、津波が1階天井近くまで押し寄せた形跡が、今も生々しく残っている。



病院の屋上に7。震災直後、職員たちは、この屋上に「SOS」と白文字で書き救助を求めた。

海岸沿いにある病院は一気に津波に襲われ、周りの交通も完全に分断され、職員と患者は院内に取り残されていた。

どうぼく @WORLD

被災地視察研修を振り返って



研修での集合写真(筆者・上列右)

今回は8月23日、24日の2日間に亘り、マレーシアの研修員達とともに宮城県の被災地を数カ所訪れました。移動中にバスの車窓から見える震災の爪跡に、研修員は車内からカメラを向けながら嘆息をもらっていました。そして、実際に津波の被害に遭われた名取市閉上地区や岩沼市の病院施設、高台にある女川町の病院から見た町内の様子を目の当たりにし、研修員一同と同行者は少なからず衝撃を受けました。

株式会社メディアサン 西坂 絵梨子 さん

報道により情報を得てはいましたが、現地を訪れ自分の目で見る光景を前に当事者からの話を聞くと言う事は、こんなに心揺さぶられ、突き刺さるものなのだと感じました。この被災地視察研修を通して得たことを、研修員が自国へ帰った今、被害状況だけを伝えるのではなく、ぜひ日本中が復興に全力を注いでいる懸命な姿もマレーシアの人々に伝えて欲しいと思います。

詳しくは、各デスクの担当者にお問い合わせ下さい。イベント情報はWebサイトにも掲載しております。ぜひご覧下さい。